

開 心  
静 聴  
充 満  
献 身  
奉 仕

日本クリスチャン・アシュラム連盟

冬 季 号

# 日本アシュラム

United Christian Ashrams of Japan

Winter 1974

▼連盟は創始者の祈りによって、常に新しい家族の参加を促している。

生れたアブミミリーの全霊的なるわらわらやあ

## 何が自己に起るか

スタンレー・ジョーンズ

キリスト教の信仰では、自己自身にどんな事が起るのか。自己とは私たちが所有している唯一のものであるから、この質問は重要である。これは私たちがこの世から出て行く時に携えて行く唯一のものであり、この世にある限り共に生きねばならぬものである。

現代の心理学は自己について三つの事を言っている。汝自身を知れ、汝自身を受容せよ。そして汝自身を表現せよ、と。私はこのような人格観を拒否しなければならぬと思う。これらをどのように取り扱ったらよいか。

まず第一に「汝自身を知れ」と言うが自分や他人との関係において自己を研究して見ても、あなた自身を知ることではできない。自己を超え、自分自身よりも高いあるもの、「神」との関係において自己を知らなければならぬ。その時私たちは神の目的と計画との関係において初めて自分自身を知るのである。キリスト教信仰は、あなたが神の子であり、あなたの運命は神の御子のようになるために造られたと教えている。

第二に「汝自身を受容せよ」と言うが、たえず争いと混乱、恐れと憤り、先入観と罪責とに満ちている好ましくない自己を受け入れることはできない。この

ような状態の自己を受け入れよ、と言うのはできないことを言うことになる。あなた自身が受容できない自己である以上、あなた自身を受容することはできない。第三に「汝自身を表現せよ」と言うが、人間は十人が十人も自己主張をしたがっている時にあなたの自己表現は何の足しになるであろうか。

さらば如何にすべきか。これらには一つの欠陥がある。それは、キリスト教の信仰が補充することのできるものである。即ち、「汝自身を明け渡せ。」ということである。あなたの所有する唯一のものを神に明渡し、より高い目的、より高い意志に委ねることである。あなたが自己を神に明け渡す時、その自己はどうなるだろうか。神は「さあ、彼を捕えたから消し去ろう」と言われるだろうか。神は私たちを全滅させるために創造されたのだろうか。もしそうならその神はどんな種類の創造主であろうか。

私が神と御国にしっかりと属すれば属するほど、私は私自身に属する。神に近づくと、私は地上を自由に歩ける。御前にひれ伏すほど、他の全てのもの前でまっすぐに立つことができる。私は生命を捨てるが、再びそれを見出す。私が

最も神のものとなる時ほど、私自身であり得ることはない。故に自己はかき消されることはない。それは潔められ、神と共に生きるのだ、それ自身と共に生きる。そしてもしあなたがあなた自身と共に生きられるなら、他人とも共に生きることが出来る。私は自己をこのまま受入れることはできないが、自己を受容することは出来る。キリスト教は自己愛を教えている。「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」あなたは自分以上のものを愛するのであるから、あなた自身を愛することができるのである。

私は神に受入れられたので、自己を受入れる。神が受入れたものを拒むことはできない。神が愛するものを軽蔑することはできない。神が私を愛されるなら、私は自己を愛する。そこで心理学の第二点(汝自身を受容せよ)が新しく用いられることになる。あなたが受容できる自己と共に生きられることは、すばらしいことである。

次に第三の点、あなたは自己を表現することができる。パウロが「私にとって生きることはキリストである。故に、私自身を表現する時、私は彼を表現することになる」と言った。このように自己を表現することができる。私は主が誰であるか、私のために何をして下さったかの証し人である。

従てあなたの生命を、あなた自身のものよりも高い意志目的のために失うことはすばらしいことである。それは再びあなたに帰ってくる。自己は消し去られな

東 江 江 海 高 定

い。今やあなたは自分自身を知り、受入れ、表現している。これらの三項目は、まずあなた自身を明渡した時に受入れられるものとなるのである。

あなた自身の手にある自己は問題であり苦痛である。しかしキリストの御手に委ねたあなたは可能性であり力である。もし今日あなたが自分をイエス・キリストに明渡されるなら、も早や問題でなく力の、も早や争いでなく勝利のあなた自身を与えられる。キリストのものになることはすばらしいことである。あなたが彼のものになる時、あなたは真実のあなたになるからである。

### 祈り続けよう

関東地区委員長

横山 義孝

第13回関東アシュラムは、愛兄弟の祈りと聖霊の賜物とによってゆたかな恵みの内に終始することが出来ました。アシュラムでなければ得られない恵みが今年も豊かであったことを覚え、溢れる感謝を主に献げるものです。聖霊なる神は、静かに、そしてたしかに明け渡した魂に、下さいました。明け放たれた魂には、主イエスご自身がその王座について下さったのです。

さて神が私たちに恵みをそいで下さることは、必ず意味があります。私たちはその恵みをいたずらに受けてはなりません。(IIコリント6の1)その最大

の目的は私たち一人一人がその属する教会で忠実に、務めを果たすためです。或るいは私たちが派遣されているその職場、家庭に於て、宣教と証しの使命を全うするためです。やがて再会するとき、一人一人が宣教の稔りを、そして証しの実をたずさえて共に分かち合うときの喜びもここから出るのです。

そのわざを全うさせて下さるお方は、ただ聖霊なる神ご自身です。内に宿って王座について下さったキリストご自身に、そこに居続けて頂くことです。即ちアシュラムに於てなされた魂の明け渡しを継続することです。ここにはほんとうの祈りの姿勢が求められます。祈りとは、さめた謙虚な心をもってみ言葉に静聴し、服従と信頼とをもって魂の明け渡しを確認し続けることです。これには時とか場所に限定があつてはなりません。順境のときの明け渡しは容易ですがその効果はめだちません。むしろ逆境のとき、戦いのとき、誘惑のはげしいときこそ明け渡しは必要です。そしてそれによって受ける恵みは大きいのです。その秘訣は実に祈りの中にあるのです。

どうしたら祈りが絶えず継続されるのでしょうか。これもまた一重に聖霊の御助けによらねばなりません。それならば聖霊は祈りに於てどのように働かれるのでしょうか。不退転の決意をもって祈りに身を投じ、祈り続けることの中に聖霊は助け手として既に働いておられます。やがて、祈らねばならないといった義務感を取り除かれ、祈ることの喜びへと引

きあげられて行きます。祈りはより深い祈りを呼び起し、聖霊によってその霊的呼吸はますます深くなるのです。結局「どんなときにもみ霊によって祈り」とは、聖霊によって祈りが祈りを呼び求める経験に達するまで、ねばり強く折れということです。やがて聖霊は自らも予想しなかった様なおどろくべき経験に私たちを到達させて下さるのです。何故なら聖霊はみ言葉に傾聴する霊であり、み言葉の真理を悟る霊であり、そして聖霊は愛の霊、あかしの霊、宣教の霊です。そして遂に全きライフチェンジに導くキリストの霊だからです。

アシュラムの恵みが更に恵みから恵みへと、お互を豊かにして行くこの課題の故に、「すべての聖徒のために祈りつづけ」ようではありませんか。目をさまして、日毎、夜毎、アシュラムの友の名をあげて、そこに主のいや増る恵みが無限にそそがれるようにと祈ることに身を献げようではありませんか。私たち一人一人は祈られて始めて生かされているのであることをこの度も深く知らされました。これこそ教会の交わりです。アシュラムの友が時と所を超えて祈り合うところにほんとうの教会が生きています。主は私たちが友のためにひたすらに祈るその祈りに必ず期待に勝る恵みをもって応えて下さることを信じます。そこに「イエスは主である」の信仰告白は現実となることを確信します。来る再会を望みつつ祈りつづけましょう。

栄光を主に帰して。

### アシュラムの五大原則(四) 神の国の体験と献身

海老沢 宣道

第四の原則を述べるに当り、しきりに思い起されることは今日まで多くのアシュラムにおいて強調された体験は、第三の原則までの個人体験であったことである。聖霊は個人的にも与えられ、導かれ、満されるが、ペンテコステは心を一つにして折った群に与えられた集団的体験であった。コイノニヤ(靈交)は個人対個人の交わりではなく、集団的交わりの中に与えられるものである。

キリストの福音は個人を救済するための十字架の贖罪愛であると同時に、神の国の到来を告げる喜びの音信である。キリスト教信仰の中心はキリスト信仰であつて、哲学思想や道徳訓ではない。

キリストは「言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った」お方である。アシュラムは純粹に霊的であると同時に、信仰生活の具体的体験を重視する理由がある。即ち福音の音が私たちの集団的交わりの中に具体化すること、つまり人間の努力によって建設する理想社会でも、神の審判の下に世の終りに出現する新世界でもない。既に到来せる「神の国」を受け入れ、それに入国する許可を受けとることである。

主は「時は満ちた。神の国は近づいた。悔改めて福音を信ぜよ」を言われる。神の国の市民になるには、徹底した

### アシュラムの五大原則

(一) キリストへの明渡し

各地からの報告

聖霊の恩化に深く浴して

今秋のアシュラム終る

▼中部地区(名古屋)

第六回アシュラムを去九月二日から一泊二日間、名古屋の一麦教会で開く。開会礼拝、開心、メッセージ、早天、聖書祈り分団、立証、充滿の時を内村委員長を初め原田、尾城、他の委員が分担、東京から迎えた高瀬恒徳師(連盟理事長)には全体の御指導を仰いだ。出席九十名、内三十名は教会に宿泊して連鎮祈禱を守る

▼四国地区(徳島県)

第九回アシュラムを去九月二日から二泊三日、初めて鴨島兄弟教会で開く。開会礼拝、開心の時から夜の祈り、朝の静聴、聖日礼拝、聖書、充滿の時を宇都宮委員長、戸田、黒田、伊藤、久保、岡村、唐渡、岩井の委員諸師が分担、山根可式理事が東京から応援、五大原則について話され、分ち合いをされ参加者五十名大いに祝され自殺を思い止まった人、再献身者が続出した。四国には今治教会主催のもあるが、これは各教会の協力によるものであったのが特色。

▼関東地区(奥多摩)

第十三回アシュラムを十月八日から二泊三日間、古里福音の家で開く。主題を『み言がうち開けると光を放って無学な者に知恵を与える』(詩一九・二三〇)

とし、開会礼拝、御言に学ぶ時を数回設け、明渡し、静聴、献身、奉仕、充滿を体験し、キリストの証人として新しくされて各自の教会へ帰って行った。横山委員長初めの高瀬、岡田、山根、大久保、帆足、中村、満丸、海老沢の委員諸師が協力奉仕した。参加者は七一名。

▼東北地区(山形県)

第四回アシュラムを十月十一日から一泊二日、上ノ山市蔵王荘で開き、宿舎一杯の四二名参加。高瀬理事長の御来援を得て、村上委員長初め、鈴木、中島、吉池、田岡、小笠原、西間の諸委員が協力され、へブル書十一章を主題に『あなたが対決を迫られている問題』を分ち合い一同恵まれ感激をもって再会を約しつつ散会した。

▼道南地区(函館市)

第五回アシュラムを十月二六日から二泊三日函館教会で谷本清牧師を広島から迎えて開き延べ百名の参加者が主の臨在を仰ぎ熱烈な祈りの中に聖霊の恩化に浴した。谷本師の聖霊の働きの強調と教会への奉仕と伝道、白川牧師の『聖霊について』の講解、数名の立証は身につまされ、道南にリバイバルの火が点じられた思いがした。今や諸教会は聖霊の充滿により力を受け、宣教的教会として立ち上ろうとしている。(増井芳雄兄報告)

▼関西地区(京阪神)

第九回アシュラムを十一月四日朝九時から五日午後三時半、吹田市のシオン・ロッジで開き主題をルカ十一章十三節にと

り、五大原則にそいつつ特に聖霊を求めて共に祈った。短期であり参加者も五〇名の少数であったが、却てよかったと思う。朝は断食して個室での祈り、静聴、ファミリーの時がよかったと言われた。今回は今までとちがいが、一人の指導者によらず委員全体が分担協力してプログラムを持った事もよかった。ぜひここで来年もと望む声が多い。(中路委員長報告)

▼中国地区(広島市)

第十三回アシュラムは予定を日延べして十一月二日から二泊三日間、広島工大山の家で東京から高瀬理事長を迎えて開く。高い所で少し寒かったが、四〇名の者が静聴するのによかった。谷本委員長、他二名の委員の他、大部分の指導を高瀬師に題った。ファミリーでの分ち合いを徹底するように教えられたのがよかった。一同心を開いて明渡し、主に服従する者とされたことを感謝して散会。

▼九州地区(福岡市)

第九回アシュラムは十一月二日から二泊三日間、西南学院山の家で開催され今治の榎本保郎牧師を講師に迎え、全体の御指導を願った。参加者は四十一名で恵まれた集会を持つことかでき感謝している。山本委員長初め一同の祈りに主がゆたかに答えて下さったことと信じる。(水田政義兄報告)

八地区の出席合計

以上八地区の退修会の出席数を合計すると、四八四名が今秋全国で参加したことになる。感謝の至り。

- (三) 聖霊の啓導と充滿
- (四) 神の国の体験と献身
- (五) 教会への奉仕と伝道

悔改めが必要である。幼児の如くになり、水と霊による新生を経て神の国に入ることが許される。神の国はいつ来るのか。見える形でなく、『神の指によって霊が追放された所に既に来ている』、『神の国は実にあなた方のただ中にあるのだ』と主は答えられる。

キリストの贖罪愛が群全体の中に浸透して、全ての相異を超えて、互に許し合い主イエスの支配下に入る時、そこに神の国は実現し初める。アシュラムは邪悪の世にあって、神の国のヒナ型になろうとする試みである。

神の国は、イエスを主と信じるだけでなく、文字通り主と仰いで服従する群の中に『義と平和と聖霊による喜び』が体験されるところである。死後にはなく現世において既に神の国を体験されるとは、何たる幸いであろう。

国家に忠実な公僕が必要であるように、神の国のために献身する者が求められている。すでに『開心の時』に主イエスへの明渡しと服従のできる人間になりたいとニードを告白した者は、アシュラムを通じて注がれる主の恵みを感じ招きの御声が聞えてくる時、『我ここにあり我をつかわしたまえ』と応答して献身するにちがいない。キリストと教会のために、キリストの苦しみのおお足りない所を身を以て補ったパウロに続く者とせられたい。教会は「神の国」建設の拠点である。アシュラムにおいて新生した主イエスの弟子たち、全員が、キリストと教会のために立上る時、すばらしい世界が出現してくるにちがいない。

### 日米アシュラム交歓会

東京と大阪で開催さる

ジョーンズ博士の祈りにより第一回の世界アシュラムがエルサレムで開かれたのは一昨月六月で、中路副理事長と鈴木留蔵理事が出席した。二年毎に開くことが約せられ、今秋十月第二回がインドのニューデリーで開かれたが、この祈禱生活運動が最も盛んに受け入れられている米国の出席者が大多数を占めたのである。そのうち十五名が帰途日本に立寄られたので、国際ミニ・アシュラムは中止したが、交歓会を東西で開いた。十月十六日午後四時、一行を三崎町教会に迎え日本側十四名と共に礼拝と交わりの時を持つ。大石牧師司会で高瀬理事長の挨拶、バーク博士が海老沢理事の通訳でインドにおける第二回世界大会の標語と共に、「第五福音書としての使徒行伝」について力強いメッセージを述べられた。のち階下で茶話会、北米連盟総務のリチャードソン氏が米国各地五十ヶ所毎年開かれている現況などを、日本の事情を海老沢総務が報告し一同友情を深めた。

大阪では翌十七日午後六時からクリスチャン・センターで開き、関西地区の有志二十名(広島から谷本師も)出席、中路委員長の挨拶に続き夕食を共にして互に意見交換をして有益であった。一行は非常に喜んで京都見物をしたあと十九日夜、高瀬、海老沢、大石の見送りを受けて羽田から帰米した。

### ○代官山一日アシュラム

関東地区委員の中村武牧師はその牧する教会単独で、去月二三日(月)に一日アシュラムを開催し、関東地区委員長の横山義孝師が応援した。出席者は三〇名であったが、回を重ねる毎に内容的に充実して行くことは感謝である。

### ○今市聖会をアシュラム式で

栃木県今市の関根辰雄牧師は昨年関東アシュラムに参加した経験をぜひ栃木の人々にも分け合いたいと去る十一月二日から二泊三日、開催の同教会主催の今市聖会に高瀬理事長を招き、アシュラムの方法を取入れ、多くの兄弟が新しい力を受けて感謝している。

### ○江古田教会リトリート

海老沢牧師の江古田教会では毎夏の修養会をリトリート(退修)と称し、アシュラム様式を取入れ昨年は満丸茂牧師、今年には中村武牧師を迎えて八月十七日(土)から箱根で二泊三日間を守り、充満の時には中高生から数名の受洗決心者があり感謝に耐えない。

### ○城北アシュラム(第5回)

明一月十五日中野バプで関東地区内の一単位として東京都内北部の数教会が連合して毎年一月十五日に一日アシュラムを開いているが、今回は中野バプテスト教会(大久保進牧師)を主催会場として、池の上、江古田、新宿西、西川口の諸教会から同志が参加、何れの教会からも出席を歓迎している。

テーマは「新生」(ヨハネ三ノ三)と決定。山根可式、大久保進、海老沢宜道の諸師が協力奉仕に当る予定。

参加費千円(会費と中食代)  
午前十時開会礼拝、開心、静聴、恵みの時、祈の細胞、充満で午後五時終了。

### ○連盟を支える力

今年度四月以降十一月末までに連盟の仕事を支えるため、各地から寄せられた尊い賛助献金は次の通り。感謝の至り。

関東地区委員会	五〇、〇〇〇円
中部	三〇、〇〇〇円
四国	一五、〇〇〇円
東北	一〇、〇〇〇円
九州	三〇、〇〇〇円

### 創始者ジョーンズ博士記念

### 三大事業への献金募集中

日本アシュラム兄弟の協力を

故スタンレー兄弟にアシュラムを教えられた世界の友は、生前希望された仕事の中左記三つを記念事業として実行することに決定、予算六〇万ドルを計上した

- ▼第一、世界アシュラム・センターをガリラヤ湖畔に建設。
- ▼第二、アシュラム未開国への活動費。
- ▼第三、発祥地サト・タルのセンター強化とクララ・スエイン病院の増築。

日本連盟もこれに参加、目標を一万ドルとした。

### 記念事業献金報告(六)

(一九七四年九月―十一月)

- ▽二四万三千四百円(前納分と合せ一千ドル) 中路嶋雄(関西委員長)
- ▽三万円 大石嗣郎(碑文谷教会)
- ▽一万円 深谷教会(関東地区)
- ▽一万円 東北アシュラム
- 大石ツヨ子(中野バプ)
- 聖テモテ聖公会(関東)
- 吉岡勝志(東京世田谷区)
- 国立ナザレン教会

- ▽五千元 横山義孝②(西川口教会)
- 日江井のぶ(中部・一麦)
- 高橋力(東北・会津若松)
- 尾城秀雄(中部)
- 吉田耕三(中部・春日井)
- 福田功(関東・浦和)
- 中屋まり子(関東・江古田)
- 松枝登代(一麦) 宮下鶴千代(豊明市) 長島伊豆男(広島市) 藤原直治(盛岡) 鈴木ヨリ(横手)
- ▽二千元
- ▽三千元
- ▽一千元 吉田美代(池ノ上) 福田功(浦和) 山本恵太郎(野方) 西田育子、杉田里子(江古田)
- ▽五百円 呉速臨、矢内英子(江古田) 石川ひで(江古田) 以上合計(二七〇)金四〇二、九〇〇円

累計 金 一、六〇七、三〇〇円

多数有志の御協力で漸く目標の半額を突破したが、あと約一〇万円を必要としている。尚一層の御支援を願う。

- ▽「アシュラムとは何か」(50円)
  - ▽「一日アシュラムの守り方」(30円)
  - ▽「地区アシュラムの手引」(50円)
- 参加者が何度でも読むべきもの  
アシュラム・ピン 一個一五〇円  
「イエスは主なり」のマーク

▼アシュラムとは故スタンレー・ジョーンズ博士がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱生活のことである。

所 道 徳 30円